

読売新聞

発行所
読売新聞東京本社
第46029号

〒100-8055
東京都千代田区大手町1-7-1
電話 (03)3242-1111(代)
http://www.yomiuri.co.jp/

2004年(平成16年)5月14日 金曜日

(35) 地域 埼玉2 13 S 2004年(平成16年)5月14日(金曜日)

埼玉モノ語り

サイクリングから競技用まで、客からの注文に合わせて自転車の中体を作るフレームビルダー(フレーム製作者)。全国でも十数人しかいないといわれるが、久喜市には約三十年にわたってオーダーフレームを作り続けてきたブランド「ELAN(エラン)」がある。ELANを製作・販売する「シクロタカハシ」の高橋清一(さん)は高校卒業後、スポーツ自転車の魅力にとりつかれた。「高卒の初任給が3〜4万円のころ、イタリアから部品を取り寄せて作ったスポーツ車が20万円。高価だが自分の体格や走り方に合わせた走りやすいものだった」という。一般にフレームビルダー

自転車フレーム(久喜市)

になるには職人に弟子入りして修業するのが普通だが、高橋さんは独力でフレーム作りを始めた。「当時は一般に工作技術が未熟で、ミリ単位のずれは当たり前だった。乗る人の体格、体力、目的に合わせて一本のフルオーダー」を自分

の手で作ったかった」と当時を振り返る。ブランド名は「突き進む」という意味のフランス語だ。自転車のフレーム作りは、丸い鉄パイプをサイズに合わせて切断し、溶接して行われる。お客と話し合



自転車ブランド「ELAN」を作り続ける高橋清一さん

フルオーダー 30年で1400台

は、丸い鉄パイプをサイズに合わせて切断し、溶接して行われる。お客と話し合

でお客様と設計内容を相談できるようになった。これまで千四百台以上のオーダーフレームを、一台一台お客さんと作り上げてきた。店には高橋さんの自転車仲間が集まり、チームELANが結成された。全日本のアマチュアクラブ対抗レースを何度も制し、プロの競輪選手も輩出したが、「

お客さんと設計内容を相談できるようになった。これまで千四百台以上のオーダーフレームを、一台一台お客さんと作り上げてきた。店には高橋さんの自転車仲間が集まり、チームELANが結成された。全日本のアマチュアクラブ対抗レースを何度も制し、プロの競輪選手も輩出したが、「

番心に残っているのは、病気で歩くことも困難になったメンバーが、自分の作った自転車でもう一度走り、体があつた自転車だから乗ることが出来た」と話してくれたときという。大手メーカーもオーダーフレーム作りを導入し、アルミやカーボンといった新素材を使った自転車が目立ってきた。高橋さんが注目される

さいたま

二コースと話題

(藤本 宏)

「読売新聞の埼玉版」で取り上げて頂きました。